

2016年（平成28年） 3月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/25~3/2のNYMEX・WTIは、需給緩和解消期待から値上がりし、32~34ドルで推移した。

3月3日は、前日の在庫統計が増加となったことがやや重しとなり反落した。4月限の終値は、前日比0.09ドル安の34.57ドルとなった。

週末4日は、米国雇用統計の改善、米国内の掘削リグ数が11週連続で減少したことなどから反発し、36ドル前後での取引となった。4月限は、前日比1.35ドル高の35.92ドルで終了した。

週明け7日は、サウジアラビア、ロシア、ベネズエラ、カタールの4か国による会合への支持が広がりつつあることなどから続伸した。4月限の終値は、前日比1.98ドル高の37.90ドルと2ヵ月半振りの高値で終了した。

8日は、取引開始直後は前日の流れを受け一時38ドル台を記録したが、その後発表された中国の貿易統計が大幅な落ち込みを示したことから、3日振りに反落した。4月限の終値は、前日比1.40ドル安の36.50ドルで終了した。

9日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫の増加はほぼ予想通りだったものの、ガソリンや暖房油在庫が減少したこと、産油4か国の会合が20日にモスクワで開催されると報じられたことから市場安定に対する期待が高まり値上がりした。4月限の終値は、前日比1.79ドル高の38.29ドルと3ヵ月振りの高値となった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週はやや値上がりし30~32ドルで推移した。3日は32.20ドル、4日は32.50ドル、週明け7日は34.90ドル、8日は欧米市場の値上がりを受け35.60ドル、9日は35.00ドル。

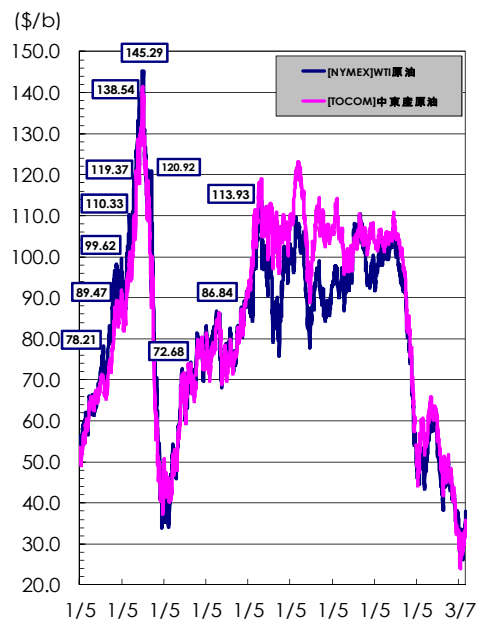
為替は、前週はやや円安が進み112~113円台で推移した。3日は113.67円、4日は113.62円、週明け7日は113.70円、8日は113.03円、2日は112.49円でやや円高。

財務省が8日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、21,716円/klとなり、前旬を1,662円下回った。ドル建てでは28.97ドルで前旬比2.53ドル安。為替レートは1ドル/119.16円。

主要元売会社の3月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、横ばいから2.5円の値上がりだった。原油の値上がり円安によりコストは値上がりした。

そのような中で、3月7日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下がりの112.0円、軽油も0.6円値下がりの97.1円、灯油は0.2円値下がりの61.1円となった。ガソリン・軽油・灯油共に3週連続の値下がり。この週の原油コスト、元売りの卸価格はほぼ横ばいだったが、前々週の卸売価格値下がりの影響が残り、43都府県で値下がりした。

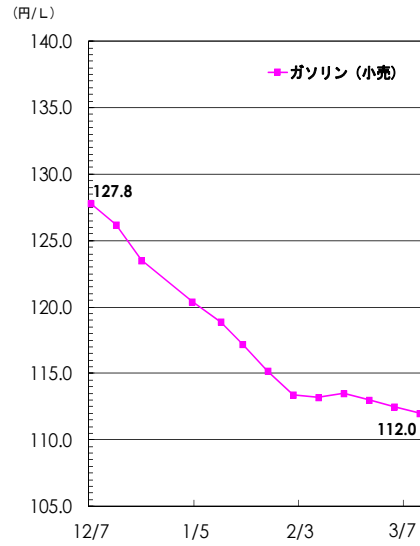
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/28 ~ 3/5	3,805 ▲ 39	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.3 ▲ 0.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/5	14,536 ▲ 1,064	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	3/7	35.77 ▲ 4.10	▼ -22.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	3/7	37.90 ▲ 4.15	▼ -12.1
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	2月中旬	28.97 ▼ -2.53	▼ -20.57
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	21,716 ▼ -1,662	▼ -15,062
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	119.16 ▼ -1.17	▼ -1.12
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/7	114.70 ▼ -0.08	▲ 7.04



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/28 ~ 3/5	1,097 ▲ 38	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	936 ▼ -90	▼ -	
	輸出	"	179 ▲ 71	▲ -	
	在庫	3/5	1,677 ▼ -17	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/1 ~ 3/7	32.8 ▲ 1.3	▼ -25.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/1 ~ 3/7	35.4 ▼ -0.4	▼ -24.5
		(TOCOM/中部)	3/7	35.4 ▲ 0.4	▼ -24.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/7	112.0 ▼ -0.5	▼ -27.9	

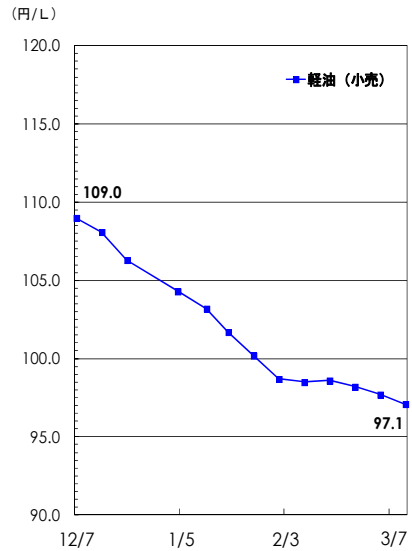
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

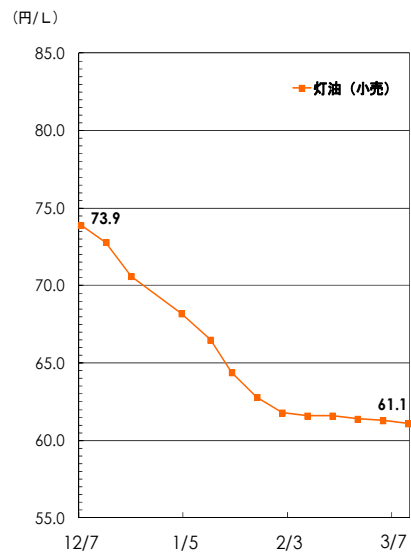
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/28 ~ 3/5	694 ▼ -173	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	610 ▼ -126	▼ -	
	輸出	"	122 ▼ -183	▲ -	
	在庫	3/5	1,496 ▼ -38	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/1 ~ 3/7	32.7 ▲ 0.6	▼ -19.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/1 ~ 3/7	36.0 ▼ -0.5	▼ -20.6
		(TOCOM/中部)	3/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/7	97.1 ▼ -0.6	▼ -22.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/28 ~ 3/5	410 ▲ 22	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	507 ▼ -88	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	3/5	1,206 ▼ -97	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/1 ~ 3/7	35.4 ▼ -0.7	▼ -21.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/1 ~ 3/7	32.9 ▲ 0.6	▼ -24.6
		(TOCOM/中部)	3/7	32.8 ▲ 1.8	▼ -24.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/7	61.1 ▼ -0.2	▼ -23.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

9日のNYMEX市場のWTI原油は、3月中旬に開催される産油国の原油安対策の会合への期待から続伸した。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想とほぼ同じ390万バレル増だったが、ガソリン在庫が事前予想(140万バレル減)を大きく上回る450万バレル減、暖房油も横ばいの事前予想に対して110万バレルの減と予想を上回る在庫の減少となった。産油国による原油安対策の会合は、イラク石油省首脳が会合は3月20日にモスクワで開催されると発言したと伝わり、より具体性が高まったとして値上

がりに転じた。4月限の終値は、前日比1.79ドル高の1バレル38.29ドル、5月限の終値は、前日比1.65ドル高の1バレル40.07ドルだった。

EIAによると、3月7日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.58セント値上がりの1ガロン1.841ドル(55.7円/ℓ)となった。ディーゼルは0.32セント値上がりの2.021ドル(61.2円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月28日～3月5日に休止したトッパー能力は、29.8万バレル/日と先週から2.7万バレル/日の減少。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は380.5万kl、前週に比べ3.9万kl増。前年に対しては、13.5万klの減少。トッパー稼働率は87.3と前週に対しては0.9ポイントの増加、前年に対しては2.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.6%増、ジェット/5.7%増、灯油/5.6%増、軽油/20.0%減、A重油/5.2%増、C重油/17.6%増。今週のC重油の輸入は8.2万kl(前週比5.0万kl増)。軽油の輸出は12.2万kl(前週比18.3万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではすべての油種で減少した。前年比では灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。全体的な需要が低調で推移する中、先週比較的好調であった反動が今週見られたものと思われる。ガソリンで93.6万kl(対前週8.8%減)と2週振りの100万kl割れ、また2週振りの前年割れとなった。

ジェット3.9万kl(対前週78.6%減)、灯油50.7万kl(対前週14.8%減)、軽油61.0万kl(対前週17.1%

減)、A重油29.8万kl(対前週10.2%減)、C重油32.9万kl(対前週3.8%減)。

(単位:千KL)

	今週 (2/28 ~ 3/5)	前週 (2/21 ~ 2/27)	前週比
ガソリン	936	1,026	▼ -90 (-9%)
ジェット燃料	39	182	▼ -143 (-79%)
灯油	507	595	▼ -88 (-15%)
軽油	610	736	▼ -126 (-17%)
A重油	298	332	▼ -34 (-10%)
C重油	329	342	▼ -13 (-4%)
合計	2,719	3,213	▼ -494 (-15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月5日時点の在庫はジェット、C重油で積み増しとなった。また前年に対してもジェット、C重油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは167.7万kl、前週差1.7万kl減。前年に対し7.1万kl少ない。

灯油は120.6万kl、前週差9.7万kl減。前年に対しては35.6万kl少ない。

軽油は149.6万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては1.4万kl少ない。

A重油は68.8万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

C重油は207.2万kl、前週差12.5万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (3/5)	前週 (2/27)	前週比
ガソリン	1,677	1,694	▼ -17 (-1%)
ジェット燃料	895	830	▲ 65 (8%)
灯油	1,206	1,303	▼ -97 (-7%)
軽油	1,496	1,534	▼ -38 (-2%)
A重油	688	695	▼ -7 (-1%)
C重油	2,072	1,947	▲ 125 (6%)
合計	8,034	8,003	▲ 31 (0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月1日から3月7日までの原油コストは、原油価格の値上がりと為替レートの円安により、値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン86円台、軽油32円台、灯油34～36円台だった。海上スポット価格は、ガソリン87～88円台、軽油33～34円台、灯油32～37円台である。また、先物価格はガソリン88～90円台、軽油35～36円台、灯油32～33円台だった。原油コストは値上がりしたものの、製品市況は全般的に小幅な変動にとどまった。気温の上昇もあり、灯油の値下がりが目立った。

EMGマーケティングは10日、12日以降出荷分の陸上外

販スポット価格について、ガソリン、軽油は2.5円、灯油は1.0円、重油は1.5円それぞれ引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりにもかかわらず、小幅な値動きだった。週間のガソリン販売量は、再び100万klを下回る水準だった。

3月第2週(3月10日～3月16日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月1日～3月7日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.3円、軽油は0.6円の値上がり、灯油は0.7円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円、軽油は0.4円の値上がり、灯油は6.1円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.4円、軽油が0.5円の値下がり、灯油は0.6円の値上がりだった。原油価格は値上がりしたものの、スポット製品価格も全般的に小幅な値動きだった。灯油の海上物の値下がりが大きかった。

3月第2週の大手元売の卸売価格は、横ばいから2.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/1 ~ 3/7)	前週 (2/23 ~ 2/29)	前週比
	レギュラー	32.8	31.5
灯油	35.4	36.1	▼ -0.7
軽油	32.7	32.1	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値 平均]	今週 (3/1 ~ 3/7)	前週 (2/23 ~ 2/29)	前週比
	レギュラー	35.4	35.8
灯油	32.9	32.3	▲ 0.6
軽油	36.0	36.5	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/1～3/7実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▼ -0.4	▲ 0.4
灯油	▼ -0.7	▲ 0.6	→ 0.0
軽油	▲ 0.6	▼ -0.5	▲ 0.1
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月7日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの112.0円、軽油も0.6円値下がりの97.1円、灯油は0.2円値下がりの61.1円だった。ガソリン、軽油、灯油とも3週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは2道県、横ばいは2県、値下がり43都府県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比1.7円安)の105.7円で、埼玉県(同1.1円安)が106.1円で続いている。最高値は鹿児島県(同0.3円安)の121.5円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは北海道(同0.8円高)で110.6円、

最も値下がりしたのは高知県(同1.7円安)で105.7円だった。

原油コストは値上がり、卸売価格も値上がりしたものの、製品スポット市況は小幅な値動きだった。次週の小売価格は、値上がりが予想される。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/7)	前週 (2/29)	前週比	直近高値	
レギュラー	112.0	112.5	▼ -0.5	08/8/4	185.1
灯油	61.1	61.3	▼ -0.2	08/8/11	132.1
軽油	97.1	97.7	▼ -0.6	08/8/4	167.4

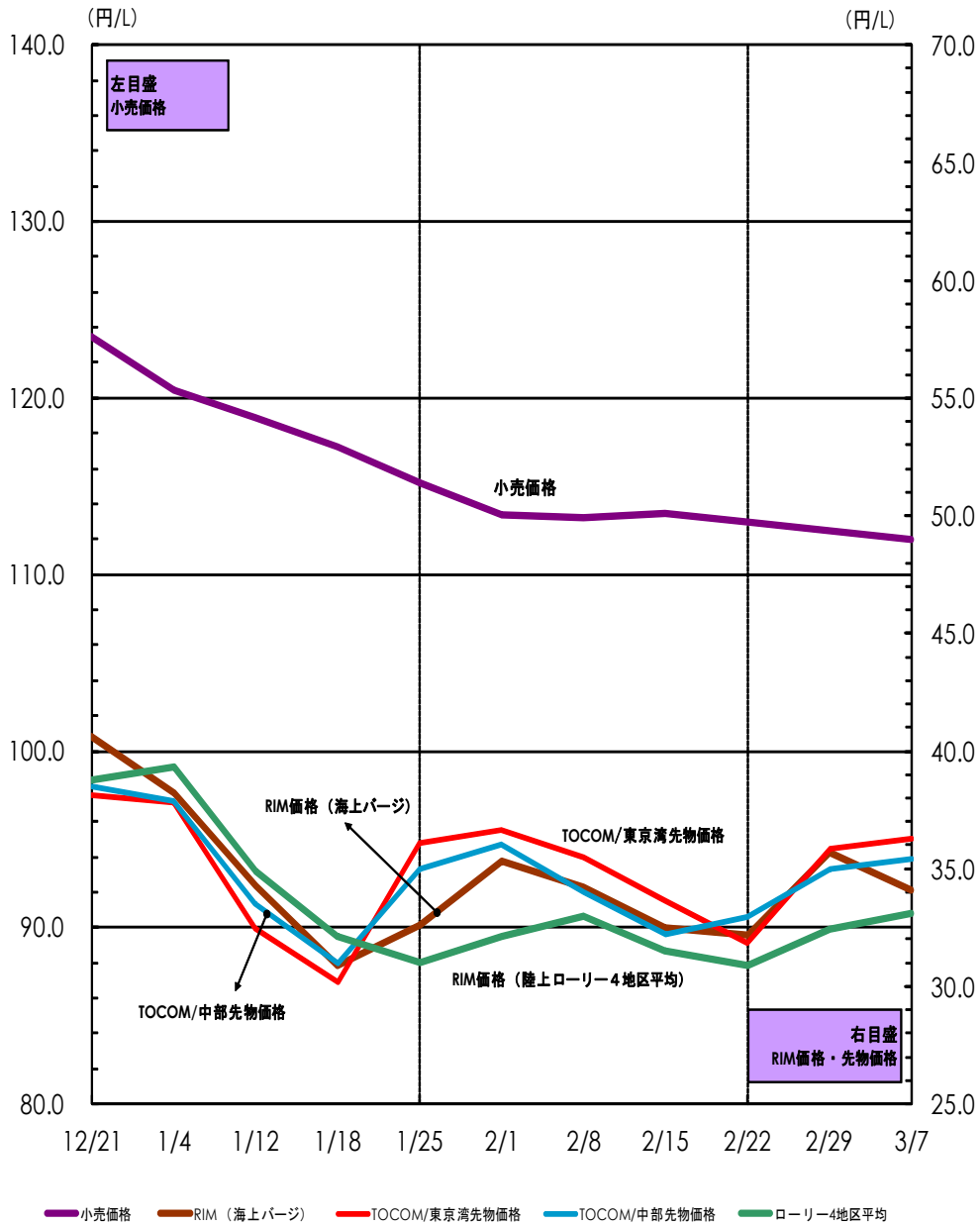
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2015/12/21 ~ 2016/3/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2015第47号)の公表は、3/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。